

【道端の自然】

～ アカネ染め ～

あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る
額田王の有名な歌ですが、ここに出てくるアカネも紫も、
草の名前です。アカネは赤、紫は紫色の染料として当時
から使われていたのでしょう。



夕焼け空を思わせる茜色、でも
アカネの花は赤ではなく、ごくごく
地味な小さな白い花で
す。ではどうしてアカ
ネというのでしょうか、そ
れは、根が赤いから。

緑地の草刈り作業の
時、蔓がいろんな植物にからみついて元気よく
伸びているアカネを見つけました。根の色は
どんなかな？と引き抜いてみると、確かにオレンジ色の根です。



古代人になったつもりで、いくつか抜いてきた根で染
物してみました。いくら赤
いといっても、根っこからそん
なにすぐに色が出てくるもの
だろうか、半信半疑。とこ
ろがしばらくすると染液が濃
赤に染まってきます、こんな



に簡単に色が出
るのか！とびっくりです。染液はこげ茶
を思わせる赤でしたが、布に移った色は、
夕焼け色。

道端にふつうに生える雑草からこんな
やさしい色が出るなんて…これを発見し
た昔の人って、すごい！

(小川)